

5 ^{おおがたけもんじょ} 大方家文書 12,738点 [有形文化財(古文書)]

[所在地] 斑鳩町五百井

[所有者] 大方豊

[時代] 室町時代～昭和時代

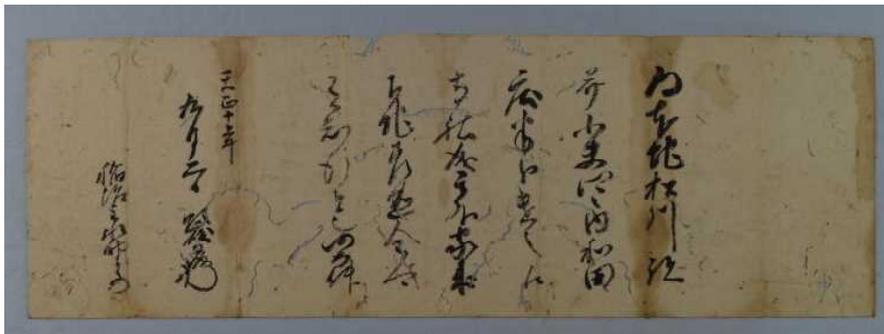
[概要]

戦国時代には戦国大名筒井氏(大和郡山城主・伊賀上野城主)に仕え、江戸時代には五百井村(現斑鳩町)の庄屋を代々務めた大方家^{おおがたけ}に伝わる文書群である。室町時代から昭和時代にかけて、1万2000点を超える大量の文書・典籍が残されている。

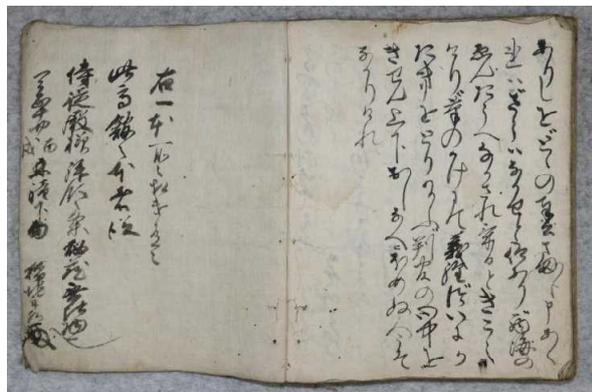
室町時代から戦国時代のものとしては、筒井氏や松永久秀(多聞山城主)など畿内の諸勢力の発給文書が含まれ、当該期の畿内政治史を復元する上で重要である。江戸時代には庄屋を務めたことから、貢租や水利などに関わる村政関係史料が豊富に残されており、地域史料として基礎をなすものである。特筆されるのは3000点以上にも及ぶ書状類で、江戸の旗本や奈良の諸寺院、京都の公家などから出された書状が含まれており、大方家の奈良内外にわたる幅広い活動を見て取ることができる。

さらに、典籍は約1000点が数えられるが、とりわけ戦国～桃山時代の能や幸若舞^{ししゅうぼん}の詞章本がまとめて伝存していることは注目される。曲目によっては現存最古の写本も含まれており、芸能史・国文学の分野からも高く評価される。

本文書群は、平成28年度～令和2年度にかけて斑鳩町により悉皆調査が実施され、全貌が明らかとなった。村方史料として長期間にわたる多彩な内容の史料から構成され、質量ともに県下を代表する文書群であると言える。



←天正10年9月2日
付筒井順慶書状



←幸若舞曲「高館」
(天正14年6月写)